

プレスリリース

2014年3月10日 国境なき医師団 (MSF)

HIV 対策:アフリカにおける治療の感染抑止効果を2件の調査研究が指摘

国境なき医師団(MSF)の研究部門「エピセンター」は、先週ボストンで開催されたレトロウイルス・日和 見感染症会議(CROI)において 2 件の調査研究を発表した。両研究は、HIV 治療が拡大された地域の新規感染減少を示すもの。サハラ以南アフリカの HIV 負荷の高い環境で導入された大規模な抗レトロウイルス薬(ARV)治療と、その新規感染抑止効果の可能性を考察する数少ない調査研究となった。

マラウイのチラヅル郡のウイルス抑制率は米国の 2 倍

一方の研究調査が行われたマラウイのチラヅル郡は HIV 有病率が 17%。保健省と MSF が共同で 2001 年に大規模な ARV 治療を導入したが、"タスク・シフティング(業務の移管)"とケアの地域分散 化による人材不足の解消に多大な努力を要した。同郡の ARV 治療普及率は 65.8%と高い。本研究 によると、新規感染すなわち罹患率は横断的な人口ベースの調査としては非常に低水準で、わずか 0.4%だった。罹患率の男女比は女性が 0.57%、男性が 0.18%で女性の方が高い。さらに、調査対象となった HIV 陽性者(ARV 治療中の人とそうでない人の両方を含む)も、61.8%と高い割合で血中の HIV-RNA 量が 1000 コピー未満の"検出不可"の水準だった。これは例えば、2012 年の米国の HIV 陽性者におけるウイルス抑制率 25%の 2 倍以上に相当する。

マラウイの研究を率いたダヴィド・ママン医師は「この研究では HIV とともに生きる人の3人に2人が、HIV "検出不可"の水準にあり、ウイルスの伝染リスクもほとんどありません。このように条件の限られた環境でこれほどの水準を達成できるということがわかり、驚いています。この研究は治験ではありませんが、私たちの確認した罹患率は低水準で、HIV 感染症の治療そのものが伝染抑止に一定の役割を担ったことを強く示唆するものといえるでしょう」と語る。

ARV 治療が新規感染抑制に一定の効果

MSF によるもう一方の研究調査は南アフリカのクワズル・ナタール州で行われた。現地の HIV 有病率は 世界でも最も高水準の 25%だ。クワズル・ナタール州における治療の大規模導入はマラウイよりも遅く、2009 年前後だが、治療そのものは 2004 年から小さな規模で行われていた。高い有病率に対し、年間 罹患率は比較的低い 1.2%と、やはり ARV 治療が新規感染抑制に一定の機能を果たしているであろう ことがうかがえる。その他の研究所見もかなり興味深い。女性の有病率は男性の 2 倍で、30~40 歳の年齢層が最も高く 56%。他方、20~30 歳の若年女性は年間の罹患率が最も高く 4.0%と、同年代の男性の 4 倍にものぼる。総じて ARV 治療の普及率は良好で、ARV 治療の必要な HIV 陽性者の 4



人に3人が治療を受けており、男性の63.9%に対し、女性は78.5%と普及率がより高い。ウイルス抑制は、6ヵ月以上ARV治療を継続していた人の89.6%で達成された。加えて、HIV陽性者は高い割合で同調査研究以前から自身のHIVステータスを把握していた。

南アフリカの調査研究を率いたエレナ・ウエルガ医師は「今回 MSF が行ったような研究は、HIV 感染症をつぶさに観察するために欠かせません。研究により、現場の状況は予想よりもいいことがわかりましたが、援助活動の効果を最大限に引き出すため、どこに照準を絞らなければならないかも正確に把握できました。見たところ、治療プログラムが長期にわたるほど、より高い伝染抑止効果があるようです。つまり、世界の保健医療関係者は、大規模な HIV/エイズ治療を推し進め、最大多数の人に可能な限り早期の治療を届けよということでしょう」と述べている。

MSF は現在、20 ヵ国以上で 28 万人余りの ARV 治療を援助している。

以上

本件に関するお問い合わせ先:

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当:舘 俊平(たち・しゅんぺい) TEL:03-5286-6141 携帯:090-5759-1983 FAX:03-5286-6124

E-mail: press@tokyo.msf.org http://www.msf.or.jp